

### ■ 計画の背景、目的

- ✓ 中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故（平成24（2012）年）など、公共施設やインフラ施設の老朽化に伴う事故を背景として、公共施設等の老朽化問題が社会的に注目されることとなりました。こうした中、国から全国の自治体に対して「公共施設等総合管理計画」と、それを踏まえた「個別施設計画」の策定に関する要請があり、公共施設等の適切な維持管理と、計画的な更新や長寿命化に取り組むことが求められるようになりました。
- ✓ これを受け本市では、公共施設等の状況を把握するとともに、長期的な視点から、施設の再編も含めた全体のマネジメント方針を示す計画として、平成28年度（2016年度）に「柏原市公共施設等総合管理計画」を策定しました。
- ✓ 今回策定する個別施設計画は、限られた財源の中で、市民サービスをより良い形で継続的に提供していく観点から、施設の特性や役割等を踏まえながら、今後の維持管理や更新・長寿命化等の方針を具体的に示すものとして策定します。

**【計画期間】 令和3年度（2021年度）～令和12年度（2030年度）の10年間**

### 計画の対象施設

	施設	所在地	建築年	建物構造	延床面積	管理形態
1	柏原市民文化センター (公民館・柏原図書館)	柏原市上市4丁目1番27号	昭和53年 (1978年)	RC造 4階建	2,480.15㎡	市直営
2	市立国分図書館	柏原市田辺1丁目3番7号	平成16年 (2004年)	RC造 4階建	2,112.51㎡	市直営
3	資料館	柏原市高井田1598番地-1	平成4年 (1992年)	RC造 3階建	1,490.10㎡	市直営
	高井田文化教室 (柏陽庵)		平成5年 (1993年)	木造 2階建	234.47㎡	

※RC造：鉄筋コンクリート造

柏原市民文化センター	市立国分図書館	柏原市立歴史資料館	
			
		資料館	高井田文化教室（柏陽庵）

## 施設の評価と課題

施設の今後の方向性を検討する上で、「建物等の性能」、「施設利用や管理運営の状況」、「施設の立地環境」、「施設の役割や必要性」の視点から評価を行い、課題を整理します。

### ■ 市立国分図書館

評価の視点		評価内容
建物等の性能	経過年数	・鉄筋コンクリート造で平成16年（2004年）の建築であり、比較的新しい。
	耐震性	・新耐震基準の建築物であり、問題なし。
	劣化等の改善事項	・外部階段の劣化が激しく、利用者の安全上の問題がある。そのほか、自動ドア、防犯カメラ、排煙窓、音響設備などに劣化が見られる。 (改修・更新の希望箇所) 書庫が無いため、蔵書収蔵力に限界がきている。書庫の増設が必要。
施設利用や管理運営の状況	利用条件等	・図書の貸出等は、市内在住、在勤、在学者対象の他、広域サービスも実施。 ・地域交流ホール、会議室は主に図書館事業等で使用し、使用のない場合に周辺地域の市民が利用。
	管理運営状況	・維持管理を部分的に専門業者に委託しつつ、直営で管理している。 ・歳入：約146千円/年、歳出：約9,798千円/年（H29～R1の平均）
立地環境	アクセス性	・河内国分駅、市内循環バスの利用が可能（国分図書館前）。 ・駐車場20台。幹線道路に面し、車でアクセスしやすい環境にある。
	立地上の制約等	・大和川浸水想定区域（0.5m～3m未満）に含まれている。 ・土地は定期借地(平成15年度から20年間)であり、本計画の期間中に借地期間が終了することとなる。
	周辺類似施設	・周辺に類似施設はない。市内には市立柏原図書館が立地。
施設の役割や必要性		・国分地域における市民の身近な生涯学習拠点であるとともに、市内に2館ある図書館の一つであり、社会教育に関する施策を展開する上で重要な役割を果たしている。 ・近年は利用者数がやや減少傾向にある中、地域交流ホールなどの貸館機能も含め、施設の利用促進や有効活用を図る必要がある。

### ■ 柏原市立歴史資料館

評価の視点		評価内容
建物等の性能	経過年数	・歴史資料館は鉄筋コンクリート造で平成4年（1992年）の建築であり、30年を経過しようとしている。 ・高井田文化教室は木造で平成5年（1993年）の建築であり、更新目安年数（40年）の半分を経過している。
	耐震性	・新耐震基準の建築物であり、問題なし。
	劣化等の改善事項	・歴史資料館は西側壁面の一部に外壁材の剥落箇所あり。そのほか電気設備、空調設備の更新等が必要となっている。 ・館内にエレベーターがなく、バリアフリー対応の面で課題がある。 ・高井田文化教室は概ね良好な状態で維持管理されている。 (改修・更新の希望箇所) 特になし
施設利用や管理運営の状況	利用条件等	・歴史資料館は、入館料は無料であり、市民利用の他、校外学習にも使用。 ・高井田文化教室は、茶室や庭園なども設置され、茶道、華道、短歌、俳句などの文化活動を主体とした貸館として利用されている。
	管理運営状況	・維持管理を部分的に専門業者に委託しつつ、直営で管理している。 ・歳入：約852千円/年、歳出：約11,560千円/年歳入（H29～R1の平均）
立地環境	アクセス性	・高井田駅、市内循環バスの利用が可能（歴史資料館前）。 ・駐車場は資料館7台、高井田文化教室8台。
	立地上の制約等	・浸水災害、土砂災害などの災害リスクは想定されていない。
	周辺類似施設	・類似施設はない。
施設の役割や必要性		・高井田横穴公園に隣接し、日本遺産の拠点施設として位置づけられている。 ・年間2万人弱の入館者があり、当館を起点とした市民活動も活発。また、他市からの観光施設としての性格もある。

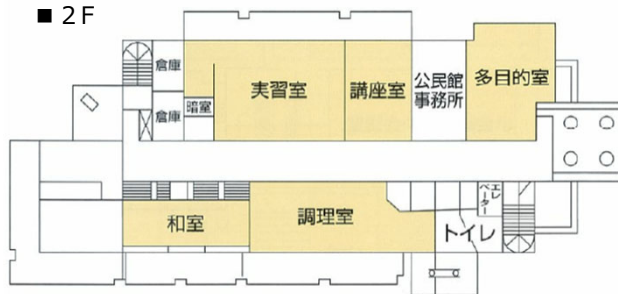
## ■ 柏原市民文化センター

評価の視点		評価内容
建物等の性能	経過年数	・鉄筋コンクリート造で昭和53年（1978年）の建築であり、40年以上経過。更新目安年数（60年）から見ると、残存年数は少ない。
	耐震性	・旧耐震基準の建築物であり、耐震診断は実施済み、耐震改修は未実施。
	劣化等の改善事項	・雨漏り、空調の不具合、エレベーターの老朽化、防火シャッターの不作等が生じており、改善が必要である。 ・平成26年度（2014年度）に屋上防水とアスベスト除去の改修を実施。 ・老朽化対応の修繕工事を毎年行っている。  （改修・更新の希望箇所） 防火シャッター
施設利用や管理運営の状況	利用条件等	・（公民館）指導者を除く5名以上の参加者で、市内在住・在勤・在学者が8割以上を占めるグループ又は団体が利用可能。 ・図書館の貸出等は、市内在住、在勤、在学者対象の他、広域サービスも実施。
	管理運営状況	・維持管理を部分的に専門業者に委託しつつ、直営で管理している。 ・歳入：約2,116千円/年、歳出：約24,092千円/年（H29～R1の平均）
立地環境	アクセス性	・柏原駅、堅下駅、市内循環バスの利用が可能（文化センター前）。 ・駐車場19台。
	立地上の制約等	・大和川の浸水想定区域(0.5m～3.0m未満)に含まれている。
	周辺類似施設	・近隣の類似施設として、堅下合同会館、柏原市民プラザ（アゼリア柏原内）がある。
施設の役割や必要性	<p>・市民の文化活動や生涯学習等の拠点であるとともに、市内に2館ある図書館の一つ（柏原図書館）が設置されており、社会教育に関する施策を展開する上で重要な役割を果たしている。</p> <p>・近年は利用が減少傾向にある中で、類似機能を持った周辺施設との間で機能の集約化も考えられる。</p> <p>・災害時の指定緊急避難場所としての役割も有している。</p>	

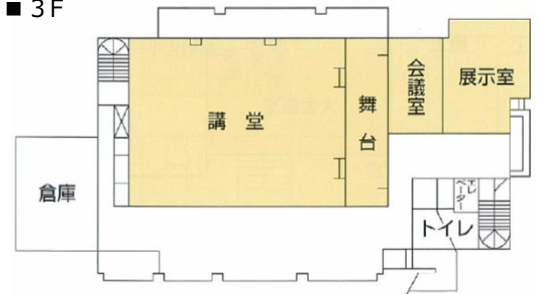
■ 1F（柏原図書館）



■ 2F



■ 3F



## 施設の維持・管理方針（柏原市民文化センター）

### ■ 柏原市民文化センター

#### 1 老朽化や耐震化などハード面での課題への対応

- ・ 利用者の安全・安心を確保するため、建物・設備の老朽化や耐震化などの課題に対しては、できるだけ速やかに対応方針を検討します。検討においては、現在の場所でのサービス継続を前提とした大規模改修や建替えのほか、他の場所への移転整備など、幅広い選択肢を想定します。
- ・ 文化活動や生涯学習等に関する市民サービスを効率的・効果的に提供するため、堅下合同会館など、周辺に立地する類似性の高い施設との複合化も想定します。

#### 2 文化活動や生涯学習等の拠点としてのサービス継続

- ・ 老朽化対策や耐震化対策などの整備方針が決定するまでの間は、現在の施設でのサービスを継続していくことを基本とし、適切な維持管理を行います。

#### 3 適正な維持管理の実施

- ・ 維持管理を委託する専門業者等との連携の下、建物や設備の日常的な保守・点検等を適切に実施し、安全・安心な利用環境を維持します。

# 施設の維持・管理方針（市立国分図書館、柏原市立歴史資料館）

## ■市立国分図書館

### 1 市民の身近な生涯学習拠点としての機能維持

- ・ 国分地域における市民の身近な生涯学習拠点として、長期的に機能を維持していくことを基本とし、予防保全の観点から適切な維持管理を行います。
- ・ 図書館としての基幹的なサービスが維持できるよう、書庫の増設など、現在抱える課題に対して対応方策を検討します。
- ・ 地域交流ホール等の貸館機能なども有効活用し、文化活動や生涯学習等に関するサービスが効率的・効果的に提供できるよう努めます。

### 2 建物や設備の計画的な保全と長寿命化

- ・ 建物については、老朽化等の状況を踏まえて必要な長寿命化対策を計画的に実施することで、躯体への劣化の影響を抑制し、ライフサイクルコストの低減を図ります。
- ・ 設備については、修繕・更新等の周期を踏まえて計画的な保全を行います。また、修繕・更新を行う場合は、将来の社会ニーズ等も踏まえて最適な対応策を検討します。

### 3 適正な維持管理の実施

- ・ 維持管理を委託する専門業者等との連携の下、建物や設備の日常的な保守・点検等を適切に実施し、安全・安心な利用環境を維持します。

## ■柏原市立歴史資料館

### 1 歴史文化の継承や発信に関する拠点施設としての機能維持

- ・ 歴史資料館は、貴重な歴史資料等の収集・保管・研究等を行うとともに、本市の歴史文化を内外に発信するための拠点であることから、今後も長期に渡って機能を維持していくことを基本とし、予防保全の観点から適切な維持管理を行います。
- ・ 誰でも安心・快適に利用できるよう、施設のバリアフリー化を検討します。

### 2 建物や設備の計画的な保全と長寿命化

- ・ 建物については、老朽化等の状況を踏まえて必要な長寿命化対策を計画的に実施することで、躯体への劣化の影響を抑制し、ライフサイクルコストの低減を図ります。
- ・ 設備については、修繕・更新等の周期を踏まえて計画的な保全を行います。また、修繕・更新を行う場合は、将来の社会ニーズ等も踏まえて最適な対応策を検討します。

### 3 適正な維持管理の実施

- ・ 維持管理を委託する専門業者等との連携の下、建物や設備の日常的な保守・点検等を適切に実施し、安全・安心な利用環境を維持します。

### 4 施設の有効活用（高井田文化教室）

- ・ 高井田文化教室は、茶室や庭園などを併設した特徴ある施設として、引き続き市民の文化活動や観光振興などに幅広く活用します。また、社会教育施設の枠組みにとらわれない、多面的な利活用方法についても検討します。

## 施設の保全計画

### ■施設の保全に関する基本的な考え方

- 予防保全型の維持管理を行う施設では、建物や設備の保全を計画的に行い、老朽化等の状況を踏まえて必要な長寿命化対策を実施します。事後保全型の維持管理を行う施設では、長期的な使用を見越した長寿命化対策は想定せず、利用上の支障となる劣化等について、その都度対応します。
- 市立国分図書館、柏原市立歴史資料館については予防保全型の維持管理とし、柏原市民文化センターは事後保全型の維持管理とします。